

広報ひがしの

No174

令和3年

2021.8.1

人口1661人

(男)840人

(女)821人

世帯数

629世帯

(R3.7.1現在)

シーズン到来



川でも 飯沼川を通じて郷土愛を育てる会



山でも 公務員OB会



田でも

自然豊かな郷土・東野。その景観は住民の皆さんによる努力によって守られています。毎年、春先から秋にかけて里のあちこちから草刈り機の音が聞こえてきます。これも年中行事の一つで環境を守る大切なことです。
今年もシーズン到来です。

歴史で地域を強くする

災害の季節です！万全の準備を・・・

私たちの郷土・東野は阿木川と飯沼川、そして定蓮寺川の恵みを受けて発展してきました。川があつたおかげで、稻作が盛んになり、村ができ、文化が育ちました。

しかも、東野は、山々からの肥沃な土が流れ出る扇状地であることから、おいしいコメが取れることで有名です。実際、飛鳥時代には、この近くから朝廷へ次米を献上した記録があります。

しかし、恵みを受ける一方で、川がひとたび牙をむくと大変なことがあります。これまでに、何度も阿木川、飯沼川、定蓮寺川が氾濫し、大きな被害を受けてきました。

安全で豊かな生活を築くには、川との戦いを続けていかなくてはなりません。

災害との戦い

東野の川は、むかしからたびたび氾濫していました。

飯沼川は昭和36年の大水の時まではへびのように曲がりくねった川で、大水が出たびに川の流れが変わるほどでした。その災害の後、今のように飯沼川の下流をまっすぐにする工事が進められ、さらに川底をコンクリートで固めたり、ところどころに堰堤をつくると砂が流れないようにしました。

阿木川も伊勢湾台風があった翌年から少しづつ工事が進められ、堤防づくりや、堰堤づくりが行われました。橋も、上橋戸橋（昭和37年）、やした橋（昭和37年）、ハイカラ橋（昭和35年）と次々に永久橋（コンクリート橋）に作り替えられました。

わたしたちの祖先がこの土地に住み着いた時から、飯沼川と阿木川を相手に戦ってきました。地球温暖化のせいか災害の規模も昔と比べて大きくなりました。今後ますます備えが大切になります。

（私たちの郷土～東野の昔と今～）より



洪水で壊れたハイカラ橋

昭和26年7月11日災害

井林（先人の備え）
いばやし

みなさん、「井林」を知っていますか。

東野は、昔から水害が多かったので、明治のはじめには、なかもの山の一部を「井林」と決めて堤防などをおす材料をとる場所としました。

「井林」とはその災害から復旧するための備えであり、知恵でもあります。東野には、阿木川と飯沼川の二つの大きな川があります。それに「井林」がありました。

「井林」とはその災害から復旧するための備えであり、知恵でもあります。東野には、阿木川と飯沼川の二つの大きな川があります。それに「井林」がありました。

（場所）

阿木川は、ダムの下の山本用水の取り入れ口の上あたり一帯。飯沼川は、浜井場の松の木墓地の向かいの山の一部。

現在は行政の力で復旧を助けてくれますが、昔はほとんど自力での復旧でした。そのため、「井林」は、大切な備えであり、災害からの早期の復活を願う先人の頼みでもあります。

東野の古代年譜

東山道と東野

歴史で地域を強くする

年	時代	国のできごと	郷土のできごと
1000	縄文		
紀元前	弥生	稻作が始まる 金属器の使用 が始まる	○大野吾遺跡 ○染戸遺跡
紀元後			
100		各地に小さな 国ができる	
200	古墳		
300		大和政権の全 国統一が進む	
400			○大野吾遺跡
500			○大野吾遺跡
600	飛鳥	聖徳太子が摂 政となる 大化の革新	○市内の多くの古 墳がつうられる ○次米が贈られる
700	奈良		○中の島遺跡 ○正家廃寺建築 ○東山道バイパス 「吉蘇路」開通
800	平安		
900			○正家廃寺消失
1000			

大和朝廷が国家を統一する時期、都と地方はいくつかの幹線道路で結ばれていました。その一つが東山道です。沿線には30里（約16キロメートル）の間隔で駅家（宿場）が設けられ、各駅家には「駅馬」をそなえ、人や物資の移動、運搬にあてていました。

駅家は、四面が築地で囲まれ、正面には門があったそうです。内部には、倉庫・宿泊施設・馬屋・事務所などあったと思われます。

美濃国の東山道には、8つの駅家があったとされています。恵奈郡には大井駅、坂本駅があったとされていますが、現在のどの場所が駅家の場所にあたるかはっきりわからていません。

ただ、古代の交通路と関係がある遺物が採取される場所をつなぐとおおよその道筋が分かってきます。その遺物というのは、鏡、玉、剣などの形をした石製品です。瑞浪市の土岐町の「高屋遺跡」、瑞浪市釜戸町の「公文垣内遺跡」、三郷町の「下田中遺跡」、長島町の「祖理見遺跡」、東野の「若宮遺跡」「中の島遺跡」、中津川市の「落合五郎遺跡」などからそれらの石製品がまとまって採集されています。これらの遺跡をつなげていくと、東山道は、現在の瑞浪市土岐町、釜戸町から恵奈に入り、現在の三郷町佐々良木通り、長島町の永田、正家、そして東野を経て、中津川の坂本通り、手賀野から落合を経て、神坂峠を超えて阿智（現在の長野県阿智村）へつながっていたものと考えられています。

東野に駅家があった手掛かりがもう一つあります。それは、「大門」という地名です。この地名は現在の自治会の名前にも残っています。

「大門」というと、「大きな門」を連想しますが、この地名から昔のこの地には大きな門をもつ施設が存在したことが想像できます。実際、駅家には門があったということですので、確かに東野に駅家が存在した手掛かりとしてもよいと思われます。



東野の遺跡～恵那市遺跡詳細分布調査報告書より～

歴史で地域を強くする

恵那市には多くの古墳跡が残されていて、いれもでいに田近くの古墳が確認されております。多くは古墳群を作つておる一か所に数個ずつ集まつたものがほとんどです。市内でも、長島地区に集中しておる、永田川や千田川の周辺に点在しておます。古墳は川に近くといひの小高い所にゐるといひに田通性があります。川があるといひに田煙を作り、いに集落がで、その近い古墳がでるといひことだと思います。やう考へると東野には阿木川や飯沼川、定蓮寺川があるので、古墳跡があつてゐることと思いますが、東野では古墳といひ話をあまり聞いたことがありませ。

より「恵那市遺跡詳細分布調査報告書」が出され、それによると、東野にも北山地区に古墳群があったと記されております。また、「東野北山古墳」と称する古墳跡が現存することが地図に記されております。現地確認に行きましたが確認できませんでした。古墳跡の存在により、東野にも稻作集落があり、有力者が存在したことが分かります。



先人から学ぶ

先人の思いを・・

東野コミュニティセンターの1階ロビーに、ガラスケースの中に入った2階建ての木造の建物が展示してあります。下に取り付けられた説明書きには、次のように書かれています。



東野青年会館（戦後は東野公民館）

篠原三千郎氏のご寄付により建てられた青年会館でした。新公民館建設のため取り壊しが決まりました。しかし、その歴史的な意義から保存を望む声もありました。こうした声を受け、精巧な模型が作られ、コミュニティセンターに展示されていました。改修を機に多くの方にご覧いただけるよう、1階に移動しました。

メッセージ

篠原氏は東野青年会館を寄贈することを通して、「人づくりこそ肝要」という熱きメッセージを贈ってくださいました。そして、その拠点として青年会館を使いなさいと趣意書に付け加えられていました。

一国の興廃も一村の繁栄も一家の盛衰も其の懸かる処は人にあり。人を造るの急務なるは各方面等しく認るなるも、明日の時代を双肩に負うべき青年の指導教養こそ、就中大切なは亦何人も異議なき所なるべし。然るに我が東野村に於いては、其の青年指導の中心となるべき施設なく、或いは近く青年学校が設置せらるが如きも、斯くの如き施設を以て万事解消せりと見るが如きは蓋し早計にして、之と併行して或いは其の延長として、青年のみならずその延長として壯年期に達したる人達に対しても、常に修養の道場を設け修養の機会を得せしめ、相互研磨して人格の向上を期する要あるは言を俟たず。本館は以上の目的達成の為、建設せんとする。

東野青年会館設立の趣意書



当時の東野青年会館



現在の東野コミュニティセンター

今年も見事に咲きました

東野こども園の玄関近くに立派なヒトツバタコの樹があります。今年も見事な姿を見せてくれました。園長先生は、「この時期は毎日一・三人の方が写真を撮りに来ます。」と話してみました。ヒトツバタコは、じく一部の地域だけしか生き残っていない貴重な樹木です。



東野地域学校協働活動

この協働活動は、地域と学校が連携・協働した教育活動を行い、教育活動の充実と地域づくりをめざすものです。この活動の要となるのが、推進員です。推進員は、学校の教育ニーズに対して、地域の力を掘り起こし、教育活動へとつなげていく人です。



初代推進員には、丸山文憲さんが選出されました。丸山さんは常に学校に寄り添い、学校の支援をしてみえます。

東野地域安全パトロール（8・9月）

金曜日16:00～17:00

8月

27日 東野開発振興会

8月は夏休みのため

パトロールは1回のみです。

9月

3日 東野自治連合会（上）

10日 東野自治連合会（下）

17日 東野小学校PTA

24日 惠那東中学校PTA

- ・奥たくさんさんの酢飯を包む朴若葉
 - ・開け放つ風の通るや夏座敷
 - ・香り佳し新茶喫するぼろ苦し
 - ・風鈴を吊るせば風が待っており
- 市川 芳子
内木伊都子
千藤 猛司
千藤 恵三

文芸

花無山句会自選句

（令和三年六月十八日）

年長さんが茶道の勉強を始めました。講師に下浜井場の伊藤淑子さんをお迎えし、コミュニケーションセンターの二階の和室で体験学習をしました。まずは、礼儀作法をしっかりと学びました。



東野こども園（六月二十四日）



大門信号付近（7月2日）

東雲会の恒例の行事である花壇づくりが6月5日に実施されました。いつもは、花壇づくりの前に振興事務所に集合して、高齢者交通安全講習を受けてからの作業になりますが、新型コロナウイルスの感染防止のため、安全講習は中止となり、花壇づくりの作業のみとなりました。

花壇は、浜井場の万場堤の降り口と、東野の信号のある交差点と大門の信号付近の3ヶ所にあり、3つのグループに分かれて現地集合で作業をしました。

昨年の秋に植えた花を取り除き、新しい花を植えました。

花は、マリーゴールド（黄色、オレンジ）、ベゴニア（赤、ピンク、ホワイト）です。満開が楽しみです。



浜井場の花壇（6月5日）

五月三十日、良い天気に恵まれ、東野こども園、小学校の資源回収が実施されました。朝七時半過ぎから次々と地域の資源が搬入されました。

今回の資源回収は、資源ごみ回収コンテナ（テポ）が設置されて初めてのものでした。回収量の減少が心配されていましたが、いつもとほとんど変わりがありませんでした。皆様のご協力に感謝いたします。

量はともかく、みんな揃って汗をかくことに意義があると実感しました。



ありがとうございました

中の島の遠藤龍美さんより杖をご寄贈いただきました。この杖は自立式で、使わないときは倒すことなくどこでも立てておけて便利です。また、中ほどに持ち手があり、立ち上がる時にとても助かります。

遠藤さんには昨年も2本杖をご寄贈いただきました。今回のものと合わせますと4本になります。重ね重ねありがとうございます。



東野を応援してください！！

～ふるさと納税～

市外、県外にお住いの方々に、わがふるさと「東野」の応援をお願いしてください。いただいた寄付金は東野のまちづくりに活用されます。応援寄付金は「ふるさとチョイス」でのお申込みが便利です。





すくすく
クラブ
乳幼児学級

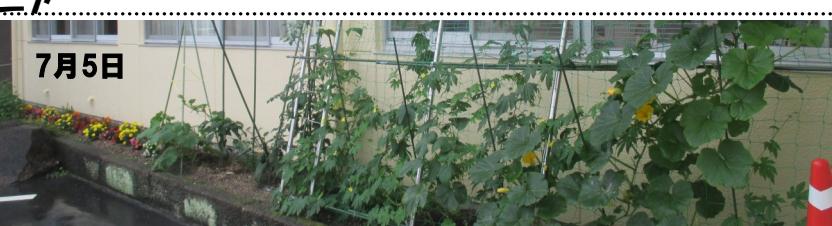
すくすくクラブでは学級生を募集しています。「参加したいな!」と思われる方は、コミュニティセンターまでお問合せください



6/24 (木) 「消防署見学」へ行ってきました。救急救命のお話を人形を使って実技を交えながら学びました。また緊急指令室を見学させてもらい、現場の緊迫感を目の当たりにしました。その後火災時の煙体験、地震体験、消防車等の見学、説明等盛りだくさんの内容でした。とても興味深く参考になる事ばかりでした。今後の子育てに役立てていきたいですね。消防署の皆さんありがとうございました。



コミセン



発行

菊も2株植えました

(五月二十一日)

東野コミセンセンターの事務室前に

ゴーヤの苗を植えました。真夏には緑のカーテンができる、少しでも室内が涼しくなることを願っています。

ゴーヤのほかに、ミニキュウリ、カボチャも植えています。

(六月二十四日)

約一か月たちました。ずいぶんと大きくなりました。ミニキュウリは、すでに二本収穫できました。ナスの収穫も間近かです。

(七月五日)

事務室からゴーヤとかぼちゃの蔓が見えるほど成長しました。もう少しで緑のカーテンが出来上がります。

つれづれに・・・

今年の春はタイミングよく適度に雨が降ったおかげで瑞々しい緑の新芽が伸びました。反面、少々日照不足で、特に葉物野菜などは生育不足気味なのが気になっています。コロナも少しずつ下火になつてきましたが、まだまだ安心できません。

今年も東野夏祭りが中止となりました。早く通常の日々が戻るのを願うばかりです。

コミセン花壇日記